

商品ラベル 再生PET樹脂60%配合

サントリー CO₂ 排出15%減

サントリー食品は、リサイクルペットボトルを原料とした商品ラベルを清涼飲料の主力ブランド「伊右衛門」と「サントリー ウーロン茶」で導入する。

一般的に、飲料の商品名などを表示する商品ラベルは、糊付け部分からはがすロールラベルと、ミシン目からはがすタイプに大別され、その大半が石油由来の樹脂で作られる。

新たに導入するラベルはロールタイプ。東洋紡、協栄産業と共同で、市場から回収されたペットボトルで作られる再生PET樹脂を開発した。ロールラベルの原料として約60%混合することで、二酸化炭素(CO₂)の排出量を約15%削減できるといふ。

サントリー食品によると、ミシン目タイプのラベルについては、日本コカ・コーラなどがすでに一部商品で再生PET樹脂



サントリー食品が今月上旬から導入する再生PET樹脂を約60%配合した新しい商品ラベル

を使っているが、ロールラベルでの採用は業界で初めて。同社の商品ラベルはミシン目タイプが全体の7割を占めるが、厚みがミシン目に比べ半分以下のロールタイプが今後の主流になるとにらみ、ロールタイプでの大量生産を目指していた。

新ラベルは、当面は群馬県渋川市の榛名工場で製造された2ミリの「伊右衛門」「伊右衛門濃いめ」「サントリー ウーロン茶」に適用する。

今後、九州熊本工場(熊本県嘉島町)など4工場で順次設備を改良し、2ミリのほか、280ミリのペットボトル商品にも対象を拡大。再生PET樹脂由来のラベルの量を、来年末までに導入当初の約4倍に高める。

製造コスト現状とほぼ変わらないが、消費者の環境意識の高まりを受け、今回の新技術でペットボトルの新しいリサイクル用途の普及を図る。

